

## 非結核性抗酸菌の感受性検査方法変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、非結核性抗酸菌の感受性検査試薬は、極東製薬工業株式会社のブロスミック NTM を用いていますが、2024 年 3 月末をもって生産が終了されました。後継品として、同社より、ブロスミック SGM とブロスミック RGM の 2 種類の試薬が販売されましたので、下記の通り、後継品での検査に変更いたします。

誠に勝手ではございますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### ■変更内容

頁	検査項目名	変更内容	新		旧	
211	抗酸菌薬剤 感受性検査	項目コード	9222			
		検査方法	液体培地希釈法	液体培地希釈法	微量液体希釈法	
		検査測定試薬	ブロスミック SGM (※)	ブロスミック RGM (※)	ブロスミック NTM	
		実施薬剤数	14	14	9	
		所要日数	8～16 日	17～22 日	8～11 日	
		検査場所	キューリン第 2 ラボ (→9)			
		備考	(※)同定された菌種により、遅発育抗酸菌用試薬(ブロスミック SGM)と迅速発育抗酸菌用試薬(ブロスミック RGM)のどちらかを選択して検査いたします。			

検査材料・量は変更ありません。詳細は 2 頁以降に記載。

#### ■変更期日

●2024 年 5 月 20 日(月)受付分より

以上

非結核性抗酸菌(non-tuberculous mycobacteria : NTM)は発育の速さによって、遅発育抗酸菌(slowly growing mycobacteria : SGM)と迅速発育抗酸菌(rapidly growing mycobacteria : RGM)に二分されます。SGM には、非結核性抗酸菌症で検出頻度が高い MAC(*Mycobacterium avium* と *M. intracellulare*)、*M. kansasii*などが含まれます。RGM はほぼ環境菌ですが、ヒトに対する病原性を持つ菌として *M. abscessus*、*M. fortuitum*、*M. chelonae* が知られています。なかでも *M. abscessus* は増加傾向にあり、MAC、*M. kansasii*に次ぐ感染が報告されています。

非結核性抗酸菌症は多剤併用化学療法による長期間の治療を必要とするため、適切な薬剤選択が重要です。遅発育抗酸菌薬剤感受性検査ならびに迅速発育抗酸菌薬剤感受性検査は、CLSI のカテゴリー判定基準に準拠して「感受性・耐性」をご報告します。

## ■検査要項

項目コード	9222		
検査項目名	抗酸菌薬剤感受性検査		
新 旧	新		旧
検査方法	液体培地希釈法		微量液体希釈法
感受性検査	遅発育抗酸菌薬剤感受性検査*1,3	迅速発育抗酸菌薬剤感受性検査*2,3	非結核性抗酸菌薬剤感受性検査
測定試薬	プロスミック SGM	プロスミック RGM	プロスミック NTM
検査材料	喀痰／その他・菌株*4		
実施薬剤*5	KM(カナマイシン) AMK(アミカシン) CAM(クラリスロマイシン) AZM(アジスロマイシン) MINO(ミノサイクリン) DOXY(ドキシサイクリン) MFLX(モキシフロキサシン) STFX(シタフロキサシン) LZD(リネゾリド) RBT(リファブチン) RFP(リファンピシン) EB(エタンプトール) INH(イソニアジド) ETH(エチオナミド)	FRPM(ファロペネム) IPM(イミペネム) MEPM(メロペネム) AMK(アミカシン) TOB(トブラマイシン) CAM(クラリスロマイシン) AZM(アジスロマイシン) DOXY(ドキシサイクリン) LVFX(レボフロキサシン) MFLX(モキシフロキサシン) STFX(シタフロキサシン) LZD(リネゾリド) CLF(クロファジ ミン) ST(スルファメトキサゾール・トリメプリム)	SM(ストレプトマイシン) EB(エタンプトール) KM(カナマイシン) RFP(リファンピシン) RBT(リファブチン) LVFX(レボフロキサシン) CAM(クラリスロマイシン) ETH(エチオナミド) AMK(アミカシン)
実施薬剤数	14	14	9
報告様式	最小発育阻止濃度 MIC 値 (単位: $\mu$ g/mL) をご報告します。CLSI 判定基準のある薬剤は S,I,R も併せてご報告します。MAC の場合は、AMK と AMK (吸入) の 2 種をご報告します。 報告書への薬剤の記載は、略号のみになります。	最小発育阻止濃度 MIC 値 (単位: $\mu$ g/mL) をご報告します。CLSI 判定基準のある薬剤は S,I,R も併せてご報告します。 報告書への薬剤の記載は、略号のみになります。	最小発育阻止濃度 MIC 値 (単位: $\mu$ g/mL) をご報告します。CLSI 判定基準のある薬剤は S,I,R も併せてご報告します。 薬剤名称(略号)を記載
所要日数*6,7	8~16 日	17~22 日	8~11 日
検査実施料/判断料	400 点(「D022」抗酸菌薬剤感受性検査(培地数に関係なく)) / 150 点(微生物学的検査判断料)		
検査場所	キューリン第 2 ラボ (→9)		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 1: 検査対象菌種は非結核性抗酸菌の遅発育菌です。</li> <li>* 2: 検査対象菌種は非結核性抗酸菌の迅速発育菌です。</li> <li>* 3: 遅発育菌と迅速発育菌の区別が必要なため、同定検査((9209)抗酸菌同定)のご依頼が必要です。2 菌種以上同定された場合は、依頼を分けてご報告します。</li> <li>* 4: 菌株の場合は、所定の保護ケースをご利用の上、常温保存にてご提出ください(保護ケースは、あらかじめ営業担当者にお申し付けください)。</li> <li>* 5: 実施薬剤の選択はできません。</li> <li>* 6: 所要日数は、薬剤感受性検査に入ってからの日数です(分離培養および前培養(増菌培養)日数は含まれません)。</li> <li>* 7: 5 週を越えて培養した培地上の菌株の場合、新鮮な培養菌を得るために、株を新たに起こし直す期間が必要になります。</li> </ul>		

参考文献: 青野昭男, 他: 日本臨床微生物学会雑誌 31(2): 19-25, 2021.

■報告様式

・遅発育抗酸菌薬剤感受性検査

菌種 薬剤	MAC ( <i>M. avium</i> / <i>M. intracellulare</i> )	MAC 以外
KM(カナマイシン)		
AMK(アミカシン)	●	●
AMK 吸入	●※	—
CAM(クラリスロマイシン)	●	●
AZM(アジスロマイシン)		
MINO(ミノサイクリン)		●
DOXY(ドキシサイクリン)		●
MFLX(モキシフロキサシン)	●	●
STFX(シタフロキサシン)		
LZD(リネゾリド)	●	●
RBT(リファブチン)		●
RFP(リファンピシン)		●
EB(エタンブトール)		
INH(イソニアジド)		
ETH(エチオナミド)		

※MAC の場合は、AMK と AMK(吸入) の 2 種をご報告します。

・迅速発育抗酸菌薬剤感受性検査

菌種 薬剤	迅速発育抗酸菌
FRPM(ファロペネム)	
IPM(イミペネム)	●
MEPM(メロペネム)	●
AMK(アミカシン)	●
TOB(トブラマイシン)	●
CAM(クラリスロマイシン)	●
AZM(アジスロマイシン)	
DOXY(ドキシサイクリン)	●
LVFX(レボフロキサシン)	●
MFLX(モキシフロキサシン)	●
STFX(シタフロキサシン)	
LZD(リネゾリド)	●
CLF(クロファジミン)	
ST(スルファメトキサゾール・トリメプリーム)	●

●: 最小発育阻止濃度 MIC 値(単位:  $\mu\text{g}/\text{mL}$ ) および S,I,R をご報告します。

表中に記号のない薬剤は、MIC 値のみをご報告します。